



## 新同窓会長に横田英一氏就任



横 田 英 一  
(50期・スキー・水泳部)

### 「新任の挨拶」

翠巒体育会の機関紙『翠巒体育』第一七号の発刊まことにめでたうございます。このような立派な機関紙を、毎年刊行なさる御苦労はいかばかりかと推察申し上げるとともに、その任にあたる編集担当の各位に深甚なる敬意を表する次第です。

私は平成十年一月二十四日の同窓会新総会において、小山禧一前同窓会長の後を受けて会長に選任されました。先般の母校創立二〇〇周年記念事業においては、小山禧一記念事業実行委員会会長のもとで、募金委員長を仰せつかり、微力ながら精一杯務めさせて頂きました。おかげさまで出来ましたが無事その任を全うすることが出来ましたが、これもひとえに同窓諸先輩のお力添えの賜と改めて感

謝申し上げる次第です。とりわけ翠巒体育会の諸兄には、さまざまな場面で力強く温かいお力添えを頂戴し本当にお礼の言葉もございません。この紙面をお借りして深謝申し上げます。

さて、母校高崎高校の近年における文武両面にわたる活躍はよく知られておりますが、その武の部門、運動部の活躍の蔭には翠巒体育会の力、絶大なものがあると同っております。高校生としての部活動は三年間で終わりますが、同じ釜の飯を喰った仲間意識は利害を離れて生涯にわたって続き、実に羨しいかぎりであります。その堅い絆で結ばれた各部のOBが現役の高校生の活動を物心両面から支援しております。

伺いますれば、高々は群馬県高校総体において、五年連続総合三位の成績をあげております。県内の公立高校で、トップの進学実績を誇る母校が、スポーツの分野でも三位の成績を五年間も守るといふのは並大抵の事ではありません。さらにはまた一昨年のバスケット部、昨年のサッカー部、そして今年のバレーボール部、また柔道部、陸上部、ソフトテニス部等々の全国大会出場は、各方面から注目された実に素晴らしい快挙でありました。

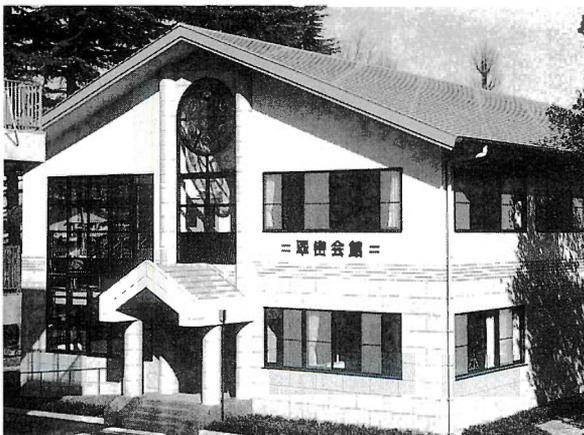
これは勿論毎日高校生を指導して下さる部顧問の先生方の献身的なご努力の賜であります。それに加えて現役の高校生のなかには受け継がれている伝統の力もあつたのではないのでしょうか。その伝統の力というものが、翠巒体育会の諸先輩の元氣なお姿だと思えます。

現在の高崎高校の部活動が県下に名を

轟かせている一つにはこのような各部のOB会組織、それを支えてさらに充実発展させていく翠巒体育会の存在があると思えます。

昔から「健全なる肉体に健全なる魂が宿る」と申しますが、若い高校生にとってスポーツはかけがえのないものです。スポーツで身を鍛え、勉強で心を鍛えて人は立派に成長するものでしょう。翠巒体育会が、山口会長を中心に、現役高校生にも力強く温かいエールを送りつつ、ますます発展いたしますことを祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

新装成つた翠巒会館



新校長就任

## 新任のご挨拶



学校 長

桜 井 直 紀

会誌「翠巒体育第十七号」の発行を心からお慶び申し上げますとともに、山口会長様をはじめとする役員・会員の皆様方には、常日頃から運動部活動はもとより、本校の教育活動全般にわたってのご支援・ご協力をいただいておりますことに、教職員を代表して厚く御礼申し上げます。おかげさまで持ちまして、教職員一人一人が十分に力を発揮し、指導に当たっており、生徒は勉強に、部活動に大きな成果を上げています。

本校は三下精神のもと、勉強・部活動の両面において大きな成果を上げています。本年度における運動部の結果を見ても、去る五月の高校総合体育大会では弓道部の優勝、バレーボール部・バスケットボール部の準優勝などにより総合成績でも第三位と活躍しました。その後インターハイ予選においてもバレーボール部の優勝、サッカー部の準優勝な

どの成果を上げることができました。各部の活躍は先輩から後輩へと、伝統の中で培われた練習方法や精神力などが引き継がれてきた結果であり、まさに汗と涙の結晶であります。また、本校は部活動を行う上で広い運動場や二つの体育館などが用意されていることに見られるように、施設の面でも恵まれた状況にあります。これも諸先輩の先見の明があったればこそであります。

若者は部活動もし、勉強もする中で、友を得、体力を得、知力等を得ます。これらを総合することにより、生きていく力としての英知を身に付けていきます。このことは、本校卒業生のその後の活躍に現れているところであり、在校生にとっては模範とすべき伝統の力となっております。特に、これからの時代は今まで以上に柔軟な思考力、強靱な体力などの幅広い力が求められる社会になりますから、人間としての成長を図る上で高校

生活のあり方が大切になります。このよな意味からも勉強だけ、部活動だけではなく、人格の完成や主体的な生き方の育成などの面からも、勉強と部活動のいずれにも取り組む人間が力を発揮する本来の姿が求められている時代です。このことは、ある時期は選手として、ある時期は研究者として活躍している外国の人の話ではありますが、この種の話は日本人には少なく、多くは選手としての活躍や、学者としての活躍に限られています。このことは、結果として幅広い意味で世界に通用する日本人となっていないことを示しているのではないのでしょうか。今の日本には学問にも、スポーツにも両方に適用する人間の育成が求められています。この意味において、文武両道に取り組んでいる高専での教育はまさに健全なものであり、先を見越したものであります。

また、高校の卒業生には、将来、地域の指導者として幅広く活躍することが求められています。もちろん、現在も卒業生の皆様方が経済界をはじめとする地域社会の中心として活躍するとともに、子どもたちの健全な育成を図る上で、地域の体育活動や文化活動に大きな力を発揮しています。特に、後者については、大人と子どもをむすぶ中間に位置する高校生も含めた青年たちの力は不可欠です。高校生たちには現在も含めて、卒業後は少年たちの兄貴として、若きリーダーとして活躍できる力を身に付けて欲しいと思います。言うまでもなく、今の日本にとって、少年たちが将来にわたってたく

(有)田口不動産・(有)田口総合設計

代表取締役 田口 恵 一

(軟式庭球部・74期)

〒750-0686 高崎市若松町1-1-1  
TEL027-3321-2492  
FAX027-3321-2996

ましく生きていく上で力を身に付けていくことが最も求められています。その育成のためにも若い力の協力は不可欠であります。言うなれば、地域リーダーの補助者としての若い力の活用は避けて通れないものであります。高専の生徒にはその要素がありますので、勉強や部活動の両立を通して、このような力を養って欲しいと思います。ですから、部活動においても選手としての力量とともに、将来の指導者としての力やあり方なども含めて、諸先輩に十分に指導して欲しいと考えます。

終わりに、翠巒体育の皆様方には、これからの本校の発展・充実のために今後ともご支援・ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

高崎高校

剣道部OB会

剣 友 会

会長 横田 茂(55期)

# 特別寄稿

私がゴルフと出会ったのは今から十二年前、小学校四年生の時でした。父に連れられて練習場に行ったことがつい最近のような気がします。同時期には、部活動でサッカーをやっていました。その時はまだ団体であるサッカーの方が面白く、練習が終わった後で気晴らしに球を打つといった程度でした。

中学生になって初めての夏、群馬県ジュニアゴルフ大会に初めて参加しました。なんとその試合でベストスコア82が出たのです。自分の中でゴルフの存在が、

## プロを目指して躍進を続ける

### 翠巒の若獅子、日大ゴルフ部主将

サッカーよりも大きくなったと感じました。これを期に、サッカーをやめて本格的にゴルフに取り組み始めました。

中学三年になり、進路を決める時期がきました。中学時代の最高成績は全国大会五位でしたので、ゴルフの強い高校からも誘いがあったのですが、自分では最初から高々へ行こうと決めていました。自宅の近くにすばらしい高校があるので、ゴルフだけの人間にはなりたくなくなつたからです。

無事、高々に合格し文武両道を目指し頑張ろうという時に、腱鞘炎になってしまいました。ゴルフをする人に多い怪我で、クラブを振ると手首から肘あたりに

かけて激痛が走る障害です。これを直すために丸一年かかりました。最初の二ヶ月はクラブも持てませんでした。今までは順調だっただけに、どうして良いか解らない不安な日が続いたことを覚えています。気持ちばかり焦って、心ここにあらず、申し込んでいた予備校をまるつきりスッポかしてしまふほどでした。

しかし、怪我が治ってしまえば悩んでいたことなど嘘のようで、翠巒祭や定期戦などの数々の高校行事を楽しみました。なかでも定期戦での勝利の校歌は良い思い出です。高校三年になり、全日本の大会で三位になっていたこともあり、大学の推薦で日本大学への進路はすんなり決

定しました。他の大学への話もありましたが、やはり強い選手のいる環境に自分をおいた方が、将来必ずプラスになるはずだと思いました。

日本大学に入学して初めての春合宿、それまでたった一人でやってきた自分にとって団体行動がこんなにも大変なものとは思いませんでした。八十人もいる先輩方の名前を覚えることだけでも一苦労でした。しかし、練習がきつということはありません。例会も月に一度ですし、ゴルフにおいては先輩後輩の区別もありません。これで日本大学は何故強いのか不思議に思う程ですが、心構えが高校時代と大きく違います。進学する時の一つ

# 田島創志

(たじま そうし)

平成7年3月卒業(96期)、高々在学中に群馬県ジュニアゴルフ選手権に出場し、2年連続。その後、日本大学に進学し、名門ゴルフ部に入部。現在、主将として活躍中。



自分の生活は、今ゴルフを中心に回っています。日本全国で試合を行います、その先々で高々の先輩方にお世話になりました。全国で活躍する高々OBの方の多さに驚くと同時に、高々を選んで良かったと思っています。

さて、いよいよプロテストまであと一年を切りました。最初の夢まであと少しです。楽しみです。みなさんの前へプロゴルファーとして立つことが、頑張りますのでみなさん応援をどうぞよろしくお願いいたします。

夢に向かって走ります。

日本マスタック工業株式会社

代表取締役 木村洋

(ラグビー部・59期)

〒300-05 高崎市中居町四一四一

TEL 027-353-3551

FAX 027-353-3583



サッカー部

古都決戦

土屋 雅史 (97期)

雨上がりのピッチ上での激戦の末、全国に名を知られる強豪・前橋商業を下し、我々は学校創立百周年、サッカー部創部五十周年という節目の年を飾るにあさわしい、インターハイ出場という栄誉を勝ち取った。舞台は古都。歴史と伝統を誇る我が校にとっては、常に歴史の中心であった、京都を舞台に戦えるという最高のシチュエーションの中で、我々の戦いは幕を開けた。

初戦は宮崎西高、本当に全国大会を戦っているのかと思うほどリラックスした状態で試合に臨めた。結果は三〇の快勝。周囲も驚いていたが、やはり一番驚

いていたのは我々選手だったのではないだろうか。続く地元・桃山戦は一〇〇の辛勝。怪進撃はまだまだ続くこととなる。この翌日、地元の新報に桃山の主将の敗戦の弁が掲載されていた。その中の一節にこんな事が書いてあった。「全国レベルはやはり違いました。」無論我々が笑いの渦に巻き込まれたの言うまでもない。「おい、全国レベルだってさ。」「まじかよー。」そんな会話がポンポン出てくる程チームのムードも最高だった。

三回戦の相手は北陸の雄・丸岡。前半二点を先行しながら追いつかれるという苦しい試合展開。イニシアチブを向こうに取られながらも、何とか同点で乗りきり、PK戦の末、誰もが予想し得なかった準々決勝進出を果たした。誰かが言った。「オレたちは、全国で一番運のいいチームだ。」あの時の我々は、まさにそんな雰囲気だったと思う。その言葉には妙な説得力があった。一日休憩日をはさんで、とうとう準々決勝の日が来た。相手は、高校サッカー界において知らない者はいないであろう国見である。しかし我々に負い気はなかった。押されながらも守備陣の奮闘で一失点に抑えこんだ。結果PKで敗れた。結果PKで敗れたもの、強豪



国見相手に善戦できたことは、サッカーのみならず、皆のこれからの人生に大いにプラスになったと思う。

私は、試合後大泣きしていた。それは試合に負けた悔しさというよりは、もうこのチームでサッカーできないことに對する寂しさからだったと思う。我々選手が試合できるのも、ベンチにいる仲間や、ベンチには入れなかったが、一生懸命応援してくれる仲間のサポートがあったからである。我々を勝利へ突き動かしていたのは、少しでも長くみんながサッカーしたいという気持ちであった。それくらい最高の仲間である。我々にとって、インターハイの一番の思い出は、サッカーもさることながら、あんなにも長い間みんなと一緒に遊べた事だったのだから。我々はOBの皆様、そして父兄の皆様にはとても感謝している。インターハイ

出場が決定後、多くの皆様が寄付を募って下さり、結果滞りなく京都での生活ができたことが、我々の躍進の大きな要因であると自覚している。この場を借りて皆様にお礼を言いたい。最後に、あの酷暑の中、ご容体が堪ばしくないとみもかわらず、毅然とした態度で我々を鼓舞して下さい。古川前校長先生に改めて敬意を表すると共に、静かにご冥福をお祈り申し上げます。次第である。

現役サッカー部の活躍と全国大会出場を期待します。(国体一回・全国高校総体二回・全国高校選手権一回)

翠巒クラブ(群馬県社会人リーグ)およびミドル翠巒クラブの益々の活躍を期待します。

高崎高校サッカー部OB会  
会長 阿久澤 茂 (69期)

戦績報告

- 1回戦 高崎3-0宮崎西(宮崎)
- 2回戦 高崎1-0桃山(京都)
- 3回戦 高崎2-2丸岡(福井)
- (PK4-3)
- 準々決勝 高崎1-1国見(長崎)
- (PK3-4)



バレー部監督 田口 哲男 (75期)

昨年度の県下の高校バレー部は優勝校が大会ごとに変わる大接戦でした。この状況の中、本校バレー部は秋季大会ベスト8、新人戦兼春高バレー予選ベスト4、県高校総体兼関東予選優勝と、チーム結成以来、大会ごとに順位を上げていきました。チームは、スパーエースの岡村が中学時代サッカー部、エース五十嵐とセンター志村はバスケットからの転向とバレー経験の浅い者が多かったのですが、キャプテンの清水を中心に目標を持ってチーム作りに励みました。インターハイ予選は接戦の連続でした

が、4回戦で強豪桐生商に2-0、準決勝で秋季優勝の高崎北に2-0、決勝は県総体優勝の前橋商に2-1で勝ち、18年ぶり2回目の出場権を得ることができました。

インターハイは8月1日より四国の松山で開催されました。本校の予選グループには大阪商大附属(大阪・本大会優勝)、美里工(沖縄・春高バレー3位の西原を破って出場)、皇學館(三重)が所属。決勝トーナメント出場は、初戦の皇學館戦が重要となりました。

第1セットはリードされ続けた皇學館を11-10から連続ブロックで15-11で押し切りました。2セット目も序盤は8-3と一方的なリード。しかし、ここから相手の粘りとこちらのミスで、11-11に。その後は互いに譲らずサイドアウトの応酬となりましたが、拮抗を抜け出すチャンスを選び、11-15でセットを落とすとしてしまいました。第3セットは0-8からリズムを取り戻して10-12と追い上げましたが、結局押し切られて10-15で逆転負けを喫しました。

次の敗者復活戦は美里工。コートの関係で続けざまの試合となりました。立ち上がりは互角以上に戦ったものの、パワーに押し切られる形で2セットとも失い、決勝トーナメント進出を果たすことはできませんでした。

あと一步で逆転負けという残念な結果となりました。しかし、インターハイという今まで考えもしなかったレベルで力一杯戦えたことは、選手一同にとって忘れられない貴重な体験となったと思いま



●対戦成績

予選グループ戦(8月2日)

高崎 1 { 15-11 } 皇學館  
          { 11-15 }  
          { 10-15 }

敗者復活戦

高崎 0 { 7-15 } 美里工  
          { 5-15 }

す。また、一人ひとりがこの経験を生きし、一層の成長を遂げてくれると確信しています。

「素人軍団」がインターハイ出場という奇跡を起こすことができたのは生徒の努力だけでなく、保護者の皆さんや学校の支援の結果と感謝しております。また、OB各位並び同窓の諸先輩方には多大なるご支援を賜わりまして本当にありがとうございます。

第8回翠巒体育会ゴルフ大会レポート

剣道部が初優勝 (個人戦は遠藤(潤)・ベスグロ梅澤(寛)氏

第8回翠巒体育会ゴルフ大会は7月14日10部48名の参加でロイヤルオークで行われました。当日は甲子園をめざす野球部が前高との試合応援の為、野球部OBの不参加の中行なわれた。前回参加できなかった剣道部が、OB会長・横田茂氏(55期)が先頭に立って、同剣道部OBの精鋭を揃え、チームワーク良く、好気合で初優勝を成し遂げました。

■ネット

順位	部	氏名	グロス	HC	ネット
1	庭	遠藤 潤	79	8.4	70.6
2	剣	大山 駿作	85	14.4	70.6
3	陸	後藤 次一	77	6.0	71.0
4	卓	江原 秀治	79	7.2	71.8
5	サ	野崎 寛	85	13.2	71.8
6	剣	堀口 順	77	4.8	72.2
7	応	早川 弘	80	7.2	72.8
8	水	秋池宗一郎	98	25.2	72.8
9	陸	横尾 信男	92	19.2	72.8
10	陸	小林 良明	80	7.2	72.8
11	剣	広兼 邦生	97	24.0	73.0
12	水	梅澤 寛	75	1.2	73.8
13	水	丸山 功一	86	12.0	74.0
14	卓	角倉 信久	79	4.8	74.2
15	卓	山口 正敏	84	9.6	74.4
16	卓	深沢 昇	87	12.0	75.0
17	陸	広田誠四郎	92	16.8	75.2
18	柔	庭田登志男	80	4.8	75.2
19	サ	阿久澤 茂	92	16.8	75.2
20	卓	八島 達雄	86	10.8	75.2

■グロス

順位	部	氏名	南	西	グロス
1	水	梅澤 寛	38	37	75
2	陸	後藤 次一	37	40	77
3	剣	堀口 順	40	37	77
4	卓	江原 秀治	41	38	79
5	柔	沼賀 勝平	35	44	79
6	庭	遠藤 潤	41	38	79
7	卓	角倉 信久	40	39	79
8	籠	古川 康夫	42	38	80
9	応	早川 弘	40	40	80
10	陸	小林 良明	41	39	80

■団体戦

1位	剣道部	77	81	85	85	328
2位	庭球部	79	83	84	84	330
3位	卓球部	79	84	84	84	331
4位	陸上部	77	80	92	92	341
5位	柔道部	79	80	95	99	353
6位	応援部	80	84	84	106	354
7位	水泳部	75	86	98	98	357
8位	サッカー部	85	89	92	92	358
9位	バレー部	420				
10位	バスケット部					



あの頃のこと

丸山 恭一 (50期)

昨年、初代翠巒体育会会長を務めた同期の國峯善次郎君より前高定期戦五十回記念誌を頂戴し早速頁を繰ってびっくりした。扉写真に昭和二十五年春の定期戦に於ける両校バレー部員の合同写真が載っているではないか。今は亡き主将の織茂君、一年下の石田君をはじめ懐しい顔に接し感懐一入であった。

バレー部創立当時の様子は翠巒体育第十六号に掛川先輩が書かれて居られ、私はその次の世代になる。当時のバレーは九人制で且つ屋外競技であった。バレーコートは学校の西側で体育館を背に、東



は図工教室棟、西は戦時中の銃器庫に囲まれた比較的風当りの少ない場所に設けられていた。図工教室棟の西端に体育教官の控室が設けられていたが、常時は角田先生(通称ターザン)が居られるだけであつたので、こゝを部室替りに使はせて頂いて居た。(卒業直前の火災の時にはこの室の火の不仕末が原因ではないかと肝を冷やした事であつた。)

朝は始業三十分〜一時間前に登校し始業迄サーヴの練習、弁当は二〜三時限の

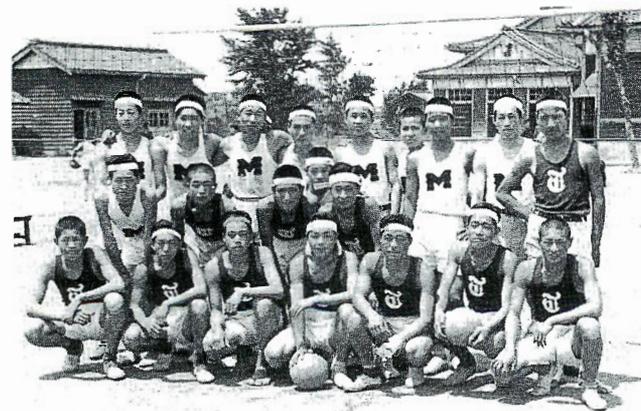
休み時間に済ませ、昼休みは時間一ぱいサーヴ又はパスをし、放課後は日暮れ迄フォワード、ハーフ、バックに時間を分けて球を追ひ続けた。自分等のポジションの時間をより多くする為にあれこれやり合つたのも懐しい思い出である。

四季を問わず履き物は朴歯(は)であつたのと経済的理由もあつて練習は常に跣、上半身は裸、パンツは長ズボンを切つて作つた短パンであつた。ボールも粗悪でチユープはパンクする、外側の皮の縫い目は破れると自宅に持ち帰つて修理するのも一苦勞であつた。夕暮れ迄ボールを追ひ、その後清水寺の石段を登る、頂きの山門で日の出を眺めたのも良い思い出として残つて

いる。

昭和二十五年は春から好調であつた。群馬県の高校、総合(社会人)両選手権を制し、群馬栃木両県の大大会(両毛大会)の優勝旗を始めて群馬に持ち帰る等県内不敗で国体予選にのぞんだ。併し乍ら決勝で宿敵高商にフルセットの末敗れ、念願の国体出場を果たす事は出来なかつた。創部以来の部長であつた金井繁次郎先生には申し訳無い事であつた。

私等五十期の卒業直前



に母校は一部校舎を残し焼け落ちてしまつた。内藤校長、金井部長先生を囲んでの卒業記念写真は玄関前のロータリーで写したものであるが後ろの校舎は左側が焼けて無い。県選手権の二つの優勝盃、両毛大会の優勝旗、そして共に汗した仲間等、これが私の青春の誇りである。

四国インターハイ出場に際し、多大なる御援助と応援を誠にありがとうございました。

高崎高校バレーボール部  
O B 会  
保護者会

### 部員八人の小所帯

坂本 一知 (76期)

高々を卒業して、早二十年以上が経ってしまっただが、すばらしい友人たちに恵まれた三年間は、いまま心のなかで輝きを失っていない。とくに、バレーボールに明け暮れていた日々のは、かけがえない思い出となっている。

私がバレー部に入ったのは、二年の秋だった。すでに新チームがスタートしてしばらく経った時期だったが、監督の菊地先生から突然、声がかかったのである。そのときは、いまま鮮明に覚えている。

休み時間に友達と無駄話をしていると、体育の授業を終えた隣のクラスの友達が出来てきて、「菊地先生が体育館で呼んでいるよ」という。何事だろうと思ひながら、体育館にいってみると、いきなり「今日から練習にこい」といわれた。突然のことに、「急にそんな……」と口ごもったものの、「おまえもバレーボールが好きなら、オレの気持ちがわかるだろう」といわれ、それ以上、何もいうことができなかった。

「はい」という言葉しかいわせない、そんな迫力が菊地先生から伝わってきた。バレー部に入ってから、試合中などに何度も怒られ、強烈な一撃を喰ったこともあるが、このときのきびしい表情は忘れることができない。

田口現監督ら三年生が引退していた当時のバレー部は、新加入の私を含めても、

二年生四人、一年生四人の計八人という小所帯。練習試合に行くにも、菊地先生と部長の岸先生の二台の車に分乗すればすむ。新一年生が入ってくるまでは、乱打もできない状態だったが、逆に部員が少ないことで、一人ひとりが責任感を持ち、結束も強かった。

なにしろ、一人でも休んだら、練習に支障をきたしてしまう。ストで電車が止まったある休日、同期の田中は松井田から自転車練習にでてきた。誰も口には出さなかったが、「強くなりたい」「うまくなるんだ」という気持ちを秘めていたのだろう。

ここ十五年ほどは、バレーボールにも触っておらず、最近では、テレビでバレー中継をみることも稀になってしまった。だが、高々バレー部のことだけは気にかかると。

菊地先生の迫力に負けるようにして入ったバレー部ではあるが、そこはすばらしい先輩や仲間、後輩たちのいる、一生忘れられない場所となったのである。

### 心に残る菊池先生の言葉

櫻井 克裕 (80期)

昭和五十三年春、私は家で「全国選抜高校バレー」をTVで観戦していた。そこには、自らを「赤い旋風」と称し、赤いユニフォームでプレーしている高崎高校バレー部の姿があった。中学からバレーボールを始めた私は、高崎高校へ入

学してもバレーを続けたいとは思っていたが、全国大会で活躍している人達の中でやっていけるのか不安だった。しかし、好きなバレーをできるのなら、強いチームで、そして、もしかしたら自分も……という思いが、高々バレー部入部を決意させた。

入学後、バレー部の練習に初めて参加した日、TVに映っていた人達を見て「本物だ」と緊張し、その先輩方のスパイクが体育館のアリーナまではね上げられるのを見て感動した。そして、菊地俊二先生に「ウチは全国九位のチームだから……」と言われ「来る場所をまちがえたかな？」と思ったりもしたことを今でもよくおぼえている。

それからのバレー部での毎日は、苦しいとか厳しいというよりは、いつも「勉強させていただきました」の連続で、菊地先生の御指導や先輩方のプレーの一つ一つが、自分に高々バレーを注入してくれていた。速い存在だと思っていた先輩方も、みんな個性的でいい人ばかりで、体育会系にありがちな堅苦しさのない、笑顔ですごせるバレー部だった。この一年生の時の一年間が、今でもバレーボールプレーヤーとしての自分を支える基になったと思っている。特に菊池先生には一つのパス、一本のサーブの大切さをたたきこまれた。また「自分のおかげで勝てましたと言えるようになれ」「自分をチームの中で生かす道をさがせ」という言葉が今も心に残っている。この一年間で菊池先生は高々を去られたが、もつと

いろいろ教えていただいたかった。

二年後の三年生の夏、私たちがインターハイ初出場を果たすことができたのも自分の力を最も伸ばすことのできた、あの一年間があったからに他ならない。そして今年、高々バレー部が十八年ぶりにインターハイ出場を決めてくれた。ちよと自分たちが高校三年生の年に生まれた子たちらしい。時の流れを感じるが、監督の田口先生は菊池先生の高々の最初の教え子であり、どこかで伝統の高々バレーを注入されているのだろうと思うと嬉しい気持ちになる。

高々でバレーをやっていたいなかったら今の自分はない。あの頃の仲間と翠巒クラブでバレーを続けていきたい。楽しみながら……。高橋浩生さんが「もうよそうぜ」と言うまで……。

### 高崎高校

### 応援部OB会

会長 永井 功 (65期)

高崎白衣大観音・高野山別格本山  
関東八十八カ所霊場第一番札所

### 慈眼院

橋爪良恒(44期) 橋爪良真(75期)  
(バスケット部)

TEL02713322126九九  
FAX0271332616131

# O B 会 の 活 動

## 卓球部

角倉 信久(69期)

現在、卓球部OB会の総数は推定で三〇〇名程と思われませんが、連絡可能なOBは約二〇〇名であります。

OB会は「高々卓球部OB会」の名と会長(深沢 昇・57期)のみで、あとは数名の有志により運営されており、会則等はありません。

主な活動は、高々卓球部現役への後援、翠巒体育会への参加、恒例となっている新年会、ゴルフ愛好者による平成元年より始まり、既に16回を数えるゴルフコンペとなっております。

翠巒体育会への参加については現会長(山口正敏・58期)をはじめ、有志により翠巒体育会主催の行事に参加しております。

平成十年の新年会は例年と異なり、時期が遅れましたが、二月二十八日九蔵町『魚仲』(羽鳥修司・63期)にて、現役卓球部の顧問の先生を招き、現役の活躍の報告を聞き、約20名の参加をもって、盛大に催されました。

また、過日(平成十年七月十四日)行なわれた翠巒体育会主催による第8回翠巒体育会ゴルフ大会では、卓球部より8名参加し、団体戦においてはバレー部、バスケット部の要請により二名トリード

に出しての団体戦出場でありましたが、トリードの人選ミスにより、第三位に甘んじる結果となりました。

## 軟式庭球部

下山萬吉雄(63期)

平成九年度軟庭部OB会は、10月18日に開催しました。昼は母校テニスコートでの現役との交流試合、腕の衰え、脚の衰えを口で補う戦いぶりは、関東、全国大会出場の現役をも圧倒するものでした。夜は駅前の長谷川ホテルに場所を移しての懇親会、昼間以上に口角泡を飛ばして青春の想い出に花を咲かせました。

平成九年度で特筆すべきことは、母校の創立百周年を機し役員の交替を行ったことです。OB会設立以来、故勝俣先輩(52期)と共に会員をリードしてくれた塚越会長(58期)が退かれ、翠巒体育会の仕事に専念されることになり、微力ではありますが、私が第三代目の会長を引き受けさせていただくことになりました。

会員の中でも年齢に大きな開きのある今、丸山(68期)木村(72期)両副会長、事務局・会計の石田(75期)山崎(68期)氏や、新たに御協力いただく年代別幹事の方々と共に、現役援助や会員同士の親睦の在り方を求めるとともに、伝統ある軟式庭球OB会の更なる発展を目指して

いきたいと思っております。

## バレーボール部

岩丸 高明(82期)

バレー部と致しまして、例年1回の定期総会を行っております。

その他の活動としましては、若手有志で春と秋にゴルフコンペをし、専門のバレーボールでは、翠巒クラブが県内はもとより県外の大会でも活躍しております。

今年、現役達がインターハイ出場というバレー部の歴史の中でも顕著な活躍ぶり、OB会としても、学校関係者、翠巒体育会、保護者会の方々のご協力により賛助会集めに奔走致しました。ご協力いただいた皆様には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

四国の本戦にもOBとして、私を含め九名のOBを派遣し、保護者会と一体となり、現役のパックアップに努めました。全国の強豪の前に惜しくも涙をのむ結果とはなりませんが、現役達が多くの人にささえられ戦ってこられた事を強く胸にきざみ、将来OBとなつて後輩達の援助、OB会活動を行ってくださることを信じています。

今後も現役の指導、援助を中心に活動を続けていきたいと思っております。

## ラグビー部

桜井 清(81期)

ラグビー部OB会は、本年一月四日高崎ビューホテルにおいてOB会総会を開催し、OB会長に木村洋新会長を選出し、新体制で十年度のスタートを切った。また、総会に先立ち高々ブランドでは白熱した現役対OB戦が行われた。三月一日には卒業生に対して、OBとなったあかしとしてエンブレムを贈呈し、卒業を祝った。続いて、六月十四日には東芝府中ラグビー部監督の向井昭吾氏を豊岡ブランドに招き、現役の技術指導をしていた。当日はあいにくの天気であったが、向井氏は自らブランドに立ち熱心に現役選手に対してアドバイスを送っていた。練習後には、サンパレスで向井監督を囲み、懇親を深めることができた。八月十五日には木村会長、森山副会長、加藤理事長が、現役が合宿をしている長野県菅平を訪れ、桜井監督に強化費を手渡すとともに激励し、花園出場へ向かつての健闘を誓いあった。

## 柔道部

鳥居 吉二(73期)

正月三日、恒例の現役・OBの合同稽古及び現役対OB紅白試合を行いました。大学生の多いOBチームも熱が入り、大いに盛り上がりました。終了後、ビューホテルにてOB会総会・新年会を行いました。関口会長(鬼石町長)の挨拶に始まり、今井先生、そして現役監督寺町先生の現状報告と選手紹介等、なごやかな内に進行了しました。酒間に充分な旧交が

深められた様子でありました。

この三月の高々の人事移動により、四年間現役生徒を指導していただいた寺町先生が前橋商業高校へ御栄転されました。先生には寝食、また家庭をも振り返らずに部員を鍛えていただきました。特筆すべきは関東大会七年間連続出場させたことでした。新任地においても一層の御活躍を祈念いたします。御苦労様でした。

今年の現役部員の活躍もめざましいものでした。関東大会団体出場、高松インターハイ個人出場と続きました。OB会としても多くの会員より寄附金をいただき、激励金として鳥居監督に渡すことができました。全国大会の結果は五位入賞という輝かしい成果を得られたとのことであり、うれしい限りであります。

## 硬式野球部

川鍋 順一(52期)

高崎高校創立百周年の歴史と共に歩んで来た高崎高校野球部の伝統を大切に守りながら、OB会は現役野球部にとって、頼り甲斐いのある存在であることを目指し努力しているところであります。

毎年6月にOB総会を開きます。そこで前年度の活動報告がなされ、続いて新年度の活動方針を決定します。現在三百名以上の会員がおります。

主な活動内容を紹介しますと、先ず、夏期大会の直前に現役選手の激励会を行い、現役部員とOB会員との親睦を図りながら、夏期大会での大活躍を願って、

激励をします。次に前橋高校OBと対抗戦があります。硬式でやりますので試合は緊迫感があり、大先輩から若手まで、現役時代を凌駕するプレーも時にはあつて、盛り上がりがあります。また本年は現役・OBの交流試合も計画されており、年間一、二回のゴルフコンペの開催と、こまめに開く幹事会は運営や懇親のために欠かせません。また、これからは野球部父兄会や野球部後援会ともよく連携しあつて、より効果のある野球部支援体制を作る必要があると思います。

野球部OB会は「戦前、阪神タイガースで大活躍した先輩・三輪八郎投手」や「昭和55年春の甲子園出場チーム」が何時かまた現れて、活躍してくれる日を待望しつつ、これからもずっとできる限りの支援活動が続けて参ります。野球部後援会、OBの皆様には一段のご協力の程を宜しくお願い申し上げます。また、現役野球部の皆さんにはどうかベストの健康を期待しています。

## 応援部

藤井 正弘(81期)

正月の新年総会と年に一度のゴルフコンペを実施しています。現在、応援部OB会員名簿に登録されている方は、百八十数名ですが、その内県内在住の方が、百三十名程おります。しかしながら、新年総会への出席が二十数名で、ゴルフコンペでは四組作るのがやっとの状況です。今年は、新年総会の際に撮った写真

と活動状況を紹介したOB会通信を会員の皆さんに送付したり、例年秋に開催しているゴルフコンペを六月に実施するなど、ひとりでも多く参加できる環境づくりに努めて参りました。

また、新年の同窓会や高々運動部顧問の先生方を交えた懇親会の席で、校歌や応援歌「翠巒」のリーダーをさせていだいております。私たちのリードで、そこに集った同窓生が声たかだかに斉唱し、志気を高め、結束を新たにする光景をみる度に、「高々つて素晴らしい」と思います。これからも、社会で活躍される同窓生にエールを贈り続ける存在でありたいと思っております。

## サッカー部

清野 哲雄(74期)

今年はずでに、一月二日の初蹴会と一月十七日の総会・新年会が無事行われ、現在、新卒業生を含めて、総勢四八六名の大所帯となりました。

翠巒クラブは、昨年の群馬県社会人サッカーの三部リーグでは、三勝六敗二分の成績となりました。今年も、一層奮起して二部昇格を目指し、群馬県サッカーに「高々あり」と称されるよう期待しています。

また、ミドル翠巒クラブでは、楽しくサッカーできますので、参加希望の方は御連絡下さい。今夏は、第七回の高々・前高サッカー

部OB会交流試合を、八月十五日に高々主催にて行いました。今後ともOB会員には、奮って御参加頂きたくお願いいたします。また、現役サッカー部への物心援助をして参りますので、OB会員の皆様には、現役の練習や試合に応援の程よろしくお願い致します。

## バスケット部

橋爪 良真(75期)

平成九年六月の総会にて72期卒業の林進一氏が会長に選出され、執行部が81期までの若手中心の布陣に変わりました。

とはいえ、行うことはあまり変わりばえせず、年度の総会開催、有志チーム「スイラン」の市民大会への出場、元旦恒例の現役との交流試合、卒業生追出し会への参加、OB各位への諸連絡などです。ただ、林会長が就任されてから、積極的にゴルフコンペを催して壮年OBとの交流を図っております。

また来年は創部七十周年を迎えることになり、何か記念事業を実施したいとも考えております。

いまや全国有数の公立進学校と化した高々において、現役は常に県ベスト4の実力を維持し、毎年優勝候補の一角に名を連ねております。またこの八月の強化大会では県優勝を果たしました。よく頑張っていると思います。何よりも現役へのバックアップが最大の活動でしょう。

# 水泳部

秋池宗一郎(65期)

平成9年

6月26日 翠樹体育会総会出席

7月5日 関東大会予選激励 於・敷島公園プール

7月23日 元水泳部顧問富田裕二先生御葬儀出席

10月7日 翠樹体育会ゴルフコンペ出場

12月27日 水泳部OB会忘年会 於「あき」

平成10年

6月13日 水泳部合宿激励

6月25日 OB会総会 於「あき」

7月12日 翠樹体育会総会出席

7月14日 水泳部OB会ゴルフコンペ開催 於・ロイヤルオーク

7月14日 翠樹体育会ゴルフコンペ出場 於・ロイヤルオーク

富田裕二先生には水泳部OB会として、又翠樹体育会としても大変御世話になりました。心より御冥福をお祈りいたします。

# 剣道部

戸塚 泰聖(77期)

剣道部のOB会は年間を通して様々な活動を行っています。この一年間の活動は次の通りです。1月3日新年総会。3月末の剣道部春合宿指導。7月に行な

れた翠樹体育会のゴルフコンペに、横田・吉野・笠井・堀口・川口・石沢・大山・広兼・中澤9名が参加。みごと優勝。7月26日社会人大会に滝野・伊藤・塚越が参加。予戦リーグ1勝1敗で残念ながら突破できず、しかし、負けた対戦相手は、準優勝したチームであった。8月下旬の剣道部夏合宿指導。

今年には部員が少なかつたせいもあって、参加したOBの数が多かった。11月には、高々・高商・高工・農大二高のOBが集まって試合を行なう4校OB戦が行なわれる。

行なわれる。



# 陸上部

波多野重雄(77期)

わが陸上競技部の主な活動は、年一回の総会と、後輩である現役高校生への支援です。今年度は、顧問の先生が岩井寿史先生から高橋賢作先生に変わられました。岩井先生は現役時代アジア大会十種競技で優勝するなど華々しい経歴の持ち主でしたが、高橋先生も数多くのイン

ターハイチャンピオンやオリンピック選手を育てた実績の持ち主です。8月上旬に行われた、OB会定例総会には、アルコー類はあまり飲まれないにもかかわらず、出席していただき、チャンピオンの育て方などについて、熱く話し合いました。インターハイに出場する選手への激励金も、その席上でお渡しすることができました。

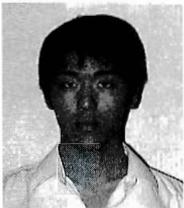
現在の課題としては、三〇〇名を越える会員名簿を持ちながら、総会への参加者が二〇名と少ないことがあげられます。今後は、より有効な連絡方法を考え、多くの会員が集まってもらえるようにしていきたいと思えます。

# 現役の抱負

## バレーボール部

僕達バレー

ボール部は、一年間を二期に分け、前期は春高・後期はインターハイに照準を合わせ、日々練習に励んでいます。毎日の練習は約三時間で、連休や週末の休日などを利用して、合宿や遠征などを行っています。



市之宮健二

他の高校とは違い練習時間が制限されますが、皆が練習の内容と意義を確認す

## 高崎高校

### 陸上部OB会

会長 横尾信男(65期)

ることで、できるだけ効果的な練習をするよう心がけています。

現在部員数は十四名と少ないですが、先輩方の残された、インターハイ出場という素晴らしい功績に負けないよう、二大会の優勝を目指して頑張っていきたいと思っています。

これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

## 卓球部

現在、高々卓球部は十五人の部員で明るく活発に練習し、個々の技術向上に努めています。顧問の加藤先生の掲げる、「組織的かつ能率的なチーム作り」を目標にして、団体戦は常にベスト8入りを目指しています。

今年度の県総体では、シード権を持っていないかったものの、高崎商業、伊勢崎東、そして安中実業を破り見事ベスト8入りを果たしました。

新体制になってからは練習の密度を高めていくとともに、集中力、精神力を高



高橋宜弘

めていく方針で活動しています。部員一同一生懸命頑張っていますので、これからも御支援、御声援よろしくお願います。

### 応援部

応援団が我々四十八代目に引き継がれてから数カ月が立ちました。その間、生徒会集会における校歌・翠巒の斉唱、夏の甲子園野球地方予選の応援と数々の行事をこなしてきました。我々の代に引き継がれて間もない頃は、先輩がいなくなり、私自身、部をまとめる事に多少の不安を感じていました。しかし、他の団員の協力もあり、野球応援も団員のまとまりのおかげですばらしいものになったと確信しております。今後、定期戦、来春には定例リーグ公開祭と我々応援団の活躍の場は多数あります。それらに向け日々鍛練を積んでおります。



齊藤日出紀

最後になりましたが、先輩方、御支援よろしくお願います。

### 水泳部

我々、水泳部は現在総勢十八人で日々練習を重ねています。



設楽俊史

主な活動内容は、五月下旬から、学校のプールで泳ぎ始め、七、八月中に行わ

れる関東予選大会、高校総体、新人戦の三つの大会に向け、六月中旬に一週間かけて合宿を行います。そして、それぞれの大会に一人一人目標をもち、その目標を乗り越えるために、一生懸命練習をします。そして、シーズンオフには、河川敷にて、球技などの筋肉トレーニングをして、週一回、浜川の温川プールを利用して、練習をしています。そして、練習することにより、お互いを刺激し、よい結果が出せればいいと思っています。これからも力添えをよろしくお願いたします。

### ソフトテニス部

現在、私達ソフトテニス部は二年生一人、一年生一人と、人数は少ないながらも部員一丸となつて、インターハイ出場を目指し、練習に励んでいます。今年にはテニスコートが新しくなり、恵まれた環境のもとで、浦野先生、関根先生、福田先生のご指導により、インターハイ予選の団体戦では、ベスト4に入ることができました。しかし、目標は、団体戦での関東大会出場、そして、インターハイ出場です。来年こそは必ずやこの目標を達成したいと思っています。最後になりましたが、日頃からお世話になっているOBの方々に、御礼申し上げます。



大崎雄三

### バスケット部

けると同時に、これからも御支援、御声援よろしくお願いたします。

我々バスケット部は、二年生十六名、一年生十五名でインターハイ目指し、立見先生、水上先生、町田先生のご指導の元、日々活動をしています。この夏に行われました強化大会では、優勝することができ、OBの方々はじめ応援して下さいました皆様から御礼申し上げます。さて、この強化大会においても、高崎高校は身長ハンデのあるチームを四〇点以下におさえるなど、「守りのバスケット」「守りの高高」にふさわしいゲームを展開し、夏のチェックポイントを通過することができました。今後もこの伝統を維持し、インターハイを目指します。ので、ご声援をよろしくお願いたします。



小澤朋克

### 弓道部

弓道部は現在二年生十七名、一年生四名と一年生の少ない部です。練習では指導して下さいる先生がお忙しく、なかなか見ていただけないので、自分たちでお互いにアドバイスし合っています。また学校の練習場は屋根や壁がなく不便なので、市の浜川運動公園内の弓道場へ行って練習することが多いです。一見これらはハンデのようですが、今年の我々の成績はというと、高校総体団体優勝、個人三位。関東大会選手権県大会で準優勝、本大会進出と波にのってきています。これからも秋の大会がいくつかあるので、一つでも多く好成績をのこせるように部を盛り上げていこうと思います。



岡本 翔

### ラグビー部

我々ラグビー部は農大二高の黄金時代にピリオドを打つべく、日々練習に励んでいます。新人戦では樹徳を相手に完敗し、先輩方からうけついでシード権まで失うという、非常事態とも言うべき危機におちいりましたが、総体ですぐに奪回しました。短期間でそれほど成長できたのは、や



小林陽介

### 高崎高校

### 水泳部OB会

会長 新谷恭一 (54期)

はり伝統校としての意地と、練習にいらして励まして下さった先輩方への感謝の気持ち、部員全員の心にあつた結果であると思います。

これから宿敵前高との定期戦、全国大会予選がはじまります。「伝統と先輩方の期待」それを胸に秘め、自分達の力を信じ、全力を尽くしますのでお力添えをよろしくお願い致します。

### 柔道部



松村幸男

我々は三年生五名、二年生二名、一年生二名の計九名の少数ながら先輩方や昨年まで指導していただいた寺町先生の築き上げてきた「伝統」を受け継ぎ、さらには発展させようと日々努力しています。

今年度より、鳥居先生に指導していただくようになり、鳥居先生の一人一人に触れて教えていただく練習は、「短い時間で充実させる」という高々らしい練習です。また鳥居先生の温和な性格は我々の心の支えにもなる大きな存在であります。

成績では、団体で八年連続関東大会出場を果たし、個人ではインターハイでベスト8という結果を残せました。これからも伝統を築いていけるよう努力しますので応援よろしくお願いします。

### サッカー部



吉田卓弥

我々サッカー部は、去年の先輩方のインターハイベスト8という、大変すばらしい成果に負けないよう、新人戦、県総体、インターハイ、選手権大会以上の大会に向けて、日々練習に励んでいます。

部員一人一人が確かな自覚・目標を持ち、部活動に熱心に、積極的に参加し、OBの皆さんの築き上げた高々サッカー部の伝統に負けないように努力しています。そして今後の目標は、文武両道はもちろんのこと、インターハイ優勝を勝ち取り、全国大会へ出場し、また練習などを通じて、個々の技術・人間性を向上させることです。

OBの皆さんの熱い応援、期待に応えられるようがんばりますので、どうぞお力添えをお願いします。

### 剣道部



中野鉄也

我々剣道部は二年五人、一年四人、計九人と少人数ですがチーム一丸となり毎日の練習に励んでいます。

新チーム発足当時は、剣道部史上最弱チームとも言われましたが夏休みの練習と三度の合宿を通してチームもまとまり

光が見えてきました。

今後は新チームとして初めての公式戦や、前高との定期戦などが控えているので、これまでの練習の成果を十二分に発揮し勝利をもぎ取るために全力でぶつかっていきたいと思います。

また、他の強豪と比べるとどうしても練習量が不足してしまうので短時間で集中して質の高い練習をしていきたいです。

栗原先生、戸塚先生の前より一層の御指導よろしく申し上げます。

### 軟式野球部



小川浩史

我々軟式野球部は、月・水・金の週三回八千代橋下の野球グラウンドで練習を行っています。

練習内容はランニング・ストレッチ・ダッシュ・キャッチボール・トスバット・バッティングなど基礎的なことから、フリーバッティング・形式ノック・シートノックなど応用的なものまで、多面に及んでいます。

我が部は野球をする上でもっとも大切なこと、すなわちチームプレーの重要性を各自がしっかりと認識することを、旨としています。その結果少練習量での技術の向上が得られるわけです。

近年、我が部の成績は春のインターハイ県予選では七年連続ベスト4に入っています。今年度もその伝統を守るよう部

員一丸となって頑張ろうと思います。

### スキー部



飯野宗隆

現在高々スキー部は、二年生七名、一年生三名の計十人で活動しています。

主な活動内容は、楽しく全身を鍛えるサッカー、感覚を養うためのインラインスケート、ランニング、筋肉トレーニングなどです。

我々の目標は関東大会に出場することです。今年の夏はザウスに練習に行くなど、目標に向かって日々頑張っています。また冬休みには、三泊ほどの合宿を予定しています。昨年は雪不足のため練習が満足にできず、大会の結果は惨々たるものでした。

今年度は昨年の記録を破れるように部員全員で頑張っていきたいと思っています。

### 空手道部



瀧川 学

空手道部は現在九人で活動しています。部員数が少ないのですが、その分団結心は他の部に負けて劣らず強いものです。

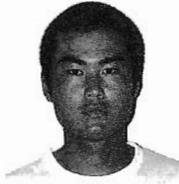
今までは、全て先輩が後輩に技術を伝えてきましたが、昨年から岸先生という

素晴らしい先生に月二、三回程、主に型の指導をしていただいています。おかげで昇段、昇級試験も順調で、大会でも、まずまずの点を出せるようになりました。組手は、基本的な打ち込みでフォームを直すと同時に、防具を付けた練習も昨年よりかなり多く行っています。

一年生が多く成長途上の段階ですが、一年生は新人戦から多く試合に出場出来、経験を積み、強くなってくれるでしょう。今後も、部員全員で団結し、技術の向上に努めたいと思います。

### 硬式野球部

現在、硬式野球部は、二年生二十八名、一年生二十名で榎見部長、佐久間監督、大須賀先生、関口先生、田村先生の熱心なご指導、そして父母会の陰の支えの下、「最後まであきらめない野球」という目標を掲げ、日夜練習に励んでいます。



近 洋輔

我々は、グラウンド内では学年の壁をなくし、部員全員がライバルとなり激しいポジション争いをし、個々の力を伸ばしています。そして試合では、驚くほどチームが一丸となって、ねばり強く勝利をつかんでいます。

二年生は一年をきりましたが、春、夏に向けて悔いの残らないようがんばりますので、先輩方のより一層の応援をよろしくお願いいたします。

### 硬式テニス部

テニス部は、現在二年生十六名、一年生十四名、計三十名で活動しています。



黒須宣行

今年度の総合体育大会の団体ではベスト16で終わってしまいましたが、インターハイ予選ではベスト4に入り、個人戦では新人戦でダブルス優勝、シングルスベスト4という好成績を残しました。

日頃の練習では、量より質をとり、内容を濃くし、技術の向上を図りました。試合では前回に比べ、予選通過者も増えたので、練習の成果が表れていると思います。

今後は新人戦団体優勝を目指して、そして来年度の総体、インターハイ予選でも良い成績を残せるよう、部員一同頑張っていくと思います。

### バドミントン同好会



青木 健

バドミントン同好会は、今年度同好会に昇格したばかりのフレッシュな団体です。五月には初めて総体に出場しましたが結果は出せませんでした。しかし、その後のインターハイ予選では単・複では結果が出なかったものの、団体戦では一勝をあげるこ

ことができました。

活動についてですが、基本的に登校する日は練習があります。ただし、本人の事情も充分考慮しています。

練習の内容は、大きく分けると、スマッシュ・クリアなど個人の技術を高める基礎練習、オールシユート・オールロングなどゲームに必要な感覚とフットワークを養う応用練習、そして、相手との掛け引きを必要とするゲーム形式の練習といった具合です。

今後の目標はいくつかありますが、まずは単と複で初勝利をあげることです。それから純欲に勝利を目指していきたいです。

### 陸上部



石野貴裕

現在、我々陸上部は何人も全国チャンピオンや日本記録樹立者を指導してきた高橋賢作先生をはじめ、山口先生、柴崎先生の熱心な指導とサポートの下、各自が目標を持ち、日々の厳しい練習に積極的に参加し、競技力・精神面の向上に努めています。

近年では、平成八年度総体総合四位、九年度三位、十年度六位となることができ、関東大会をはじめ、インターハイや団体に出場し、入賞を狙えるようになりました。

それも先輩方が築いてこられた輝かしい伝統があつてこそだと思っています。これからもこの伝統をさらに磨いてい

るよう努力したいと思っておりますのでこれからも応援お願い致します。

### 山岳部



加藤基嗣

僕が山岳部々長の加藤です。みなさんが山岳部にどの様なイメージを抱いているか知らないが、山岳部はすばらしいです。内容量80リットルのザックの中に衣・食・住を全てつみこみ山を歩く。ある時は三〇〇メートルの高山を、またある時はやぶの中を、そしてある時は雨の中を歩く。これによって自然の持つきびしさ、やさしさを一二〇%味わえ、自然と一体化する事の出来る唯一の部だと思っています。ところが、このすばらしい山岳部にもピンチが来ている。部員の少なさだ。あまりに少ないので口にも言えない人数だ。そのため関東大会に参加もできないほどです。

最後に人は大昔、森に住んでいた。そして身近に森のたくさんある所といえば山だ。人は一度は山へ行ってみるのも良いのではないのでしょうか。

### 高崎高校

### 柔道部OB会

会長 関口茂樹(63期)

平成九年度 運動部活動状況

◎陸上部

関東大会

三段跳

14m 68

岸

優勝

四段跳

14m 29

横田

7位

四段投

45m 20

大塚

7位

関東選抜大会

四段投

4m 30

梅山

4位

四段投

48m 18

大塚

2位

強化大会

八百m

2分03秒27

高橋

6位

棒高跳

3m 80

梅山

5位

走幅跳

6m 69

石野

優勝

三段跳

13m 44

佐藤

2位

四段投

44m 58

大塚

2位

八種競技

58分

横田

4位

学校対抗

百m

11秒48

石野

6位

三千m S C

9分25秒08

武藤

3位

四百m R

42秒91

大井・岸・石野・佐藤

2位

走高跳

1m 85

横田

5位

棒高跳

4m 00

梅山

5位

走幅跳

6m 97

岸

2位

三段跳

13m 96

横田

5位

四段投

44m 12

大塚

2位

新人陸上

百m

11秒37

長谷川

2位

四百m

50秒61

高橋

4位

四百m R

43秒40

梅山・佐藤・長谷川・石野

2位

棒高跳

4m 40

梅山

2位

三段跳

12m 71

佐藤

4位

砲丸投

11m 11

大塚

4位

四段投

46m 78

大塚

優勝

県総体駅伝(参加32チーム)

10位

新人駅伝(参加30チーム)

12位

◎バスケットボール部

関東大会

高崎71-73八千代(千葉)

3位

関東新人大会

高崎58-70横浜商大

3位

インターハイ予選

2回戦

高崎86-49中之条

3回戦

高崎97-28高経附

4回戦

高崎68-42沼田

準々決勝

高崎80-48太田工

準決勝

高崎66-69樹徳

強化大会(Aブロック)

2回戦

高崎108-51伊東

準々決勝

高崎69-111樹徳

準決勝

高崎81-68太田工

全国選抜大会予選

準決勝

高崎58-70高商

西毛地区新人大会

2回戦

高崎94-40高東

3回戦

高崎112-39高工

準決勝

高崎97-49富岡

決勝

高崎52-82高商

新人大会

予選T

1回戦

高崎126-15関学

2回戦

高崎97-26館商工

3回戦

高崎82-39伊市商

4回戦

高崎61-54前橋

決勝リーグ

高崎56-49前橋

高崎57-38桐生

高崎56-61高商

2位

◎バレーボール部

インターハイ予選

4回戦

高崎2-0伊市高

準々決勝

高崎0-2前商

秋季大会

2回戦

高崎2-0富岡

3回戦

高崎2-0高経附

準々決勝

高崎0-2高北

新人大会

4回戦

高崎2-0県央

準々決勝

高崎2-0太東

準決勝

高崎1-2高北

西毛地区大会

1回戦

高崎3-0伊商

2回戦

高崎2-0関学

3回戦

高崎2-0高北

準決勝

高崎0-2農大二

3位

2位

3位

2位

5位

3位

5位

3位

2位

◎山岳部  
 四百メR 中村・林・黒崎・角田 3位  
 新人大会  
 2部 1年男子 加藤 1位  
 2年男子 田中 3位  
 関東大会 出場  
 ◎柔道部  
 学年別大会  
 3年の部 桜井 5位  
 インターハイ予選  
 2回戦 高崎5―0 洪西  
 3回戦 高崎3―1 利商  
 4回戦 高崎1―2 常磐  
 個人・軽量級 長井 2位  
 木暮 3位  
 国体予選  
 60kg級 長井 2位  
 強化選手選考会  
 60kg級 木暮 1位  
 73kg級 松村 2位  
 新人大会(点取り)  
 2回戦 高崎4―0 桐生  
 3回戦 高崎3―1 洪西  
 4回戦 高崎0―4 前商  
 新人大会  
 2回戦 高崎〇4人残 高工  
 3回戦 高崎〇3人残 伊工  
 4回戦 高崎×3人残 前商  
 関東大会  
 予選リーグ 高崎1―2 那珂湊第一  
 高崎1―3 柏陵(千葉)

1回戦 高崎4―2 前西  
 2回戦 高崎4―5 桐工  
 秋季関東大会県予選  
 1回戦 高崎11―6 中央  
 2回戦 高崎15―0 嬌恋  
 3回戦 高崎5―2 伊商  
 準々決勝 高崎3―7 高商 5位

◎弓道部  
 インターハイ予選  
 1回戦 高崎0―10 館林  
 ◎硬式庭球部  
 インターハイ予選  
 準々決勝 高崎0―3 育英  
 新人大会  
 個人 西條 5位  
 団体 酒井 5位  
 2回戦 高崎5―0 榛名  
 3回戦 高崎2―3 前南  
 ◎空手道部  
 インターハイ予選  
 組手 1回戦 高崎1―4 太商 7位

◎硬式野球部  
 組手 2回戦 高崎2―3 中之条  
 春季大会  
 1回戦 高崎6―9 榛名  
 全国高校野球選手権県大会

◎バスケット  
 2回戦 138―12 青翠 3回戦 82―45 前  
 東 4回戦 107―29 農二 準々決 92―  
 56 桐南 準決勝 73―47 桐生 決勝 66―  
 85 高商 準優勝 関東大会へ

◎バレー  
 4回戦 2―0 館商 準々決 2―0 吉  
 井 準決勝 2―0 伊東 決勝 0―2  
 前商 準優勝 関東大会へ

◎ソフトテニス  
 (個人) 中川・吉田 第5位 関東大会へ  
 (団体) 2回戦 3―0 洪工 3回戦 0―  
 1 沼田

◎卓球  
 1回戦 3―0 高商 2回戦 3―0 伊  
 東 3回戦 3―0 安美 準々決 0―  
 3 前東 第5位

◎ラゲビー  
 予選リーグ 55―0 桐一 62―17 常磐  
 50―24 関学 準々決 26―5 太田 準決  
 勝 0―15 農二 第4位

◎サッカー  
 4回戦 7―1 農二 準々決 4―0 榛  
 名 準決勝 0―6 育英 第3位

◎山岳  
 第7位 関東大会へ

◎柔道  
 (個人) 松村 第4位 (団体) 2回戦  
 4―0 高経 3回戦 5―0 太工 準々  
 決 1―2 育英 敗者復活 5―0 藤工  
 5決 2―3 常磐 7決 3―1 樹徳  
 第7位 関東大会へ

第33回高校総体成績一覽(10年度)

高崎高校  
 野球部OB会  
 会長 川鍋順一(52期)

株式会社大陸不動産  
 代表取締役 山口正敏  
 (卓球部・58期)  
 高崎市宮元町一〇八番地  
 TEL〇二七三三二四〇三一

◎陸上  
 四百障 3位(高橋) 四百R 4位 円  
 盤投 優勝(大塚) 走幅跳 5位(大野)  
 四百 4位(高橋) 二百 5位(長谷川)  
 三段跳 4位(大野) 千六百R 6位  
 学校対抗 5位 右記種目全て 関東大会へ

◎テニス  
 2回戦 3―0 洪工 3回戦 1―2 富  
 岡

◎空手道  
 1回戦 不戦負桐生  
 ◎バトミントン  
 1回戦 0―2 興陽

◎弓道  
 (個人) 岡本 第3位 (団体)  
 優勝 関東大会へ

◎軟式野球  
 1回戦 5―4 長野原 準々決 3―2  
 太田 準決勝 0―8 前工 3決 1―9  
 前橋 第4位

翠 巒 体 育 会 役 員 名 簿

(平成 10.10.31)

	氏 名	回	住 所	電 話	学 校 側 顧 問
会 長 副 会 長 々 々 々 (剣道) 々 々 々 (ラグビー) 々 々 々 (バスケット) 々 々 々 (会計) 々 々 々 (会計) 会 計 監 査 々 々 々 顧 問 々 々 々	山口 正敏	58			学 校 長・桜井 直紀 教 頭・井本 嘉宣 運 動 部 長・坂田 和文
	秋池 宗一	65			
	川手 義昭	62			
	◎横田 茂	55			
	塚越 章	58			
	◎木村 洋	59			
	◎林 進一	72			
	庭田 登志	68			
	佐藤 義夫	58			
	高橋 浩生	78			
	丸山 功一	60			
	廣田 誠一郎	64			
	國峯 次郎	50			
	岩田 武雄	53			
清水 貞由	30				
理 事 陸 上 卓 球 軟 式 庭 球 バ ス ケ ッ ト バ レ ー ラ グ ビ ー サ ッ カ ー 水 泳 柔 道 剣 道 野 球 応 援 山 岳 硬 式 テ ニ ス ス キ ー ・ ス ケ ー ト 弓 道 空 手 軟 式 野 球	◎横尾 信男	65			高橋賢作・山口和士・柴崎浩明 加藤 聡・品川和男・田村知恵 浦野克彦・関根正史・福田 亨 立見賢治・町田 仁・水上光久 田口哲男・関口穂積・木本陽子 櫻井 清・長岡秀一・関口博士 坂田和文・丸山直樹・齊藤敬一 橋本晃一・小林政幸・松本正志 鳥居吉二・箕輪 明・中村博昭 栗原大介・戸塚泰聖・矢島哲雄 樽見尚人・佐久間秀人 大須賀誠一・田村 仁・関口 理 植原政明・田村修一・栗原大介 戸塚英之・福田 亨・丸山直樹 橋本晃一 塚越 究・松本正志・柴崎浩明 小林政幸・猿谷亮司・丸橋 覚 天野正明・宮崎秀明・飯野良二 斉藤和義・金井明・齋藤友紀 女屋 浩・船戸秀道・塩原秋雄
	坂本 正樹	71			
	◎深沢 昇	57			
	根岸 博昭	68			
	◎下山 万吉	63			
	丸山 博真	68			
	橋爪 良一	75			
	榊原 好之	79			
	佐藤 弘	81			
	岩丸 高明	82			
	掛川 稔	82			
	増上 正一	60			
	上田 弘	72			
	◎阿久 沢	69			
	赤羽 英光	73			
	清野 哲雄	74			
	◎新谷 恭一	54			
	小此木 勝	56			
	◎関口 茂樹	63			
	東瀬 朝紀	69			
	寺沢 保夫	83			
藤木 正行	69				
飯野 一政	74				
小池 政一	77				
小山 潤一郎	69				
清水 正	75				
小林 均	77				
◎永井 功	65				
堀口 清	65				
秋山 賢治	74				
編 集 部	藤井 正弘	81			
事 務 局 事 務 局 長	鳥居 吉二	73			
	櫻井 清	81			
野 球 バ レ ー	◎川鍋 順一	52			
	◎菊地 俊二	52			

◎は各部OB会長。

編 集 後 記

六月二十五日の総会には間に合わなかった17号もなんとか約束どおり十月に間に合わせることができました。今号は編集部も大崎君(77期)に替わって藤井君(81期)を中心に各部(12部)より編集委員を一名選定して頂き12名全員の協力により製作致しました。

昨年のサッカー部のインターハイでの大活躍に続き、今年もバレー部、陸上部、柔道部(小暮君)と出場し喜ばしい限りです。

そろそろ野球部も甲子園出場と願いたいものです。新編集委員を紹介致します。秋池宗一郎(65期)、山崎和廣(68期)、上羽正弘(72期)、堤康高(72期)、鳥居吉二(73期)、清野哲雄(74期)、橋爪良真(75期)、江原功(77期)、戸塚泰聖(77期)、波多野重雄(77期)、高橋徹(80期)、藤井正弘(81期)君です。(丸山・60期)

翠 巒 体 育 第 十 七 号

平成十年十月三十一日発行

翠巒体育会事務局

〒三七〇〇八六一

高崎市八千代町二四一

群馬県立高崎高等学校内

電話

〇二七(三三)四〇〇七四

制作・発送 (株)スパン